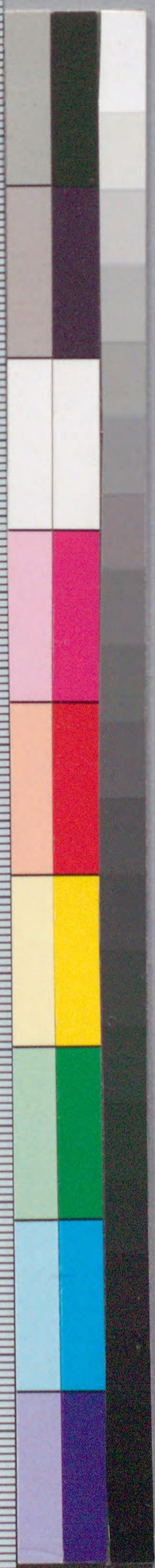


女将門七人化粧

山東京傳

207  
642

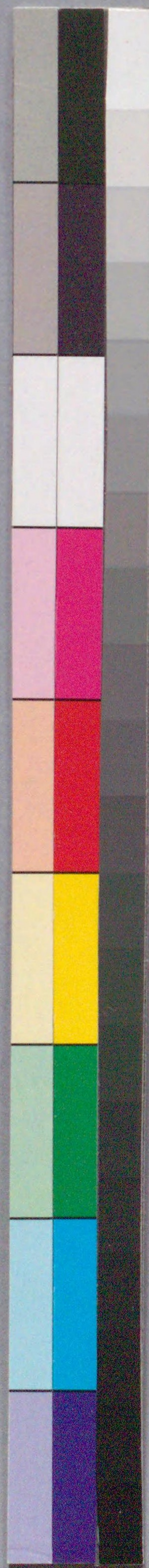
帝  
國  
書  
藏



国立国会図書館 女将門七人化粧：2巻 207-642

ガラス使用





国立国会図書館 女将門七人化粧：2巻 207-642

ガラス使用





口序

ともくせりやとせとやのまの標と三軒下すまの角をそたの  
 方む後まちうの左のるかうの月しきとあまひます  
 たりかみあまの各々様のゆけよをゆれうまのなまのこぎりて  
 多量あつたのけりれくうまのうり上りり如堂は代八未乃  
 女中流のしうりののてみぎきくは香ののほこもやもかいて  
 ふもかいてまのりく何がうのけくお様を扱つた小僧かけ香百足  
 履の百珠ののあつたのけり八百牛とを移りく二く二様の  
 むりあつたのあつたまそてちあつたうてくまのれつとにせり中  
 何りいすまのをさけしゆうのけののひこのあつたをさ  
 らのうまきんらんかたのゆひあつたけあつたはさあてはぞん下  
 大妻うりりなふとせりまの早夫早朝は出下さるい門もさる  
 何あつたまのけさしあけ録のあつたくとせのわけてはくう出  
 ちあつたうまのりくまの井着いりりあつたませぬ

壬子 十月廿九日

山東京傳述















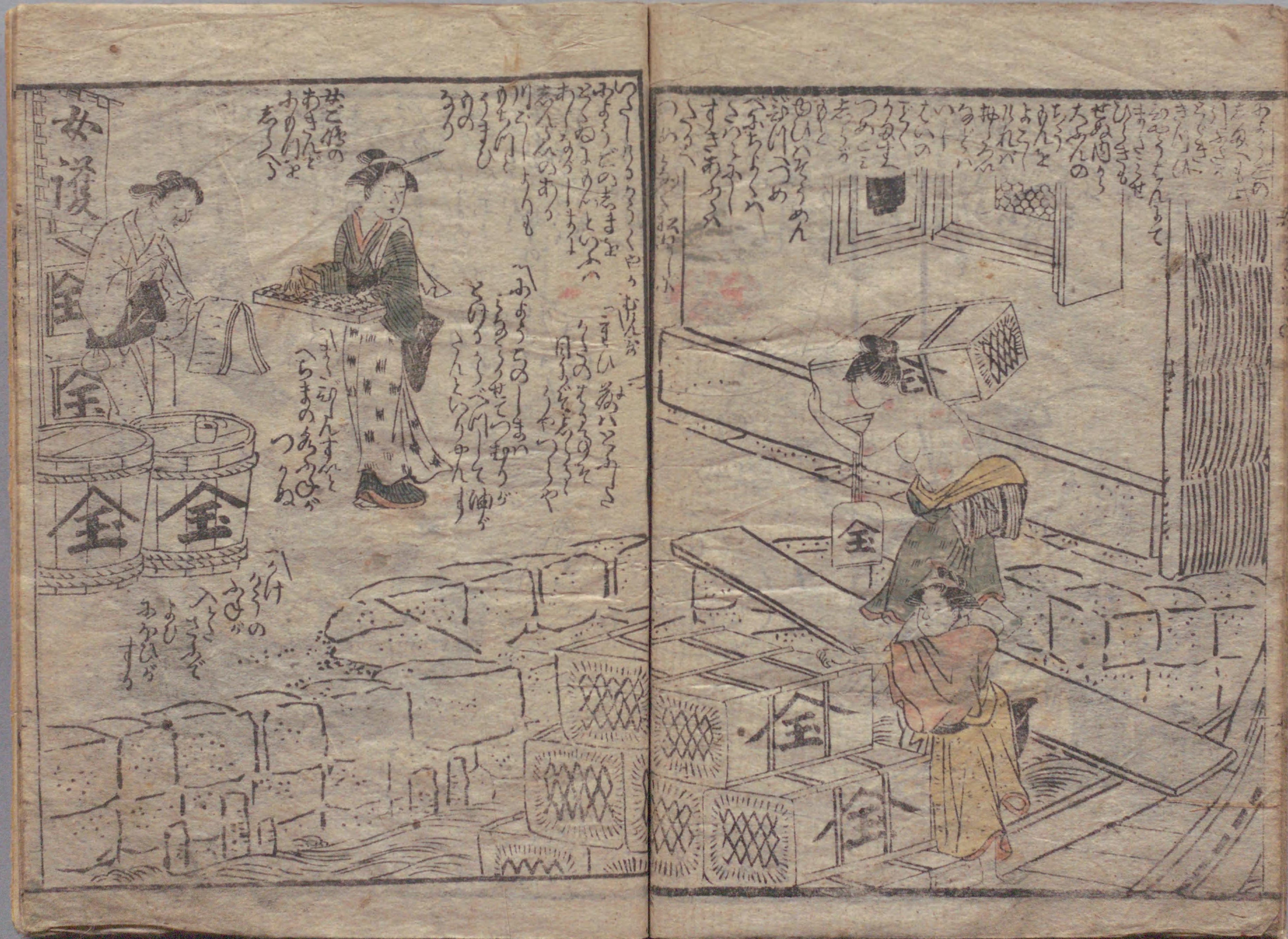






























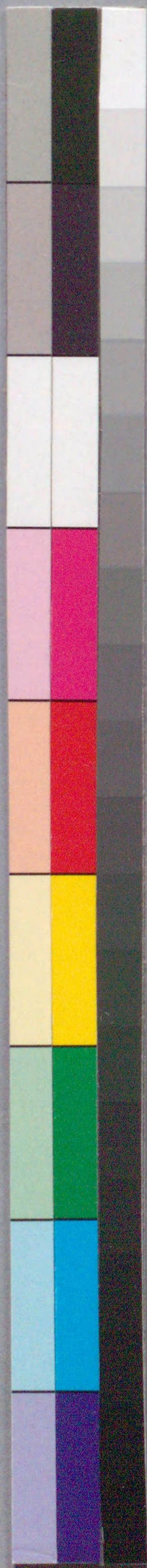
207  
642

国立国会図書館 女将門七人化粧：2巻 207-642

ガラス使用







国立国会図書館 女将門七人化粧：2巻 207-642

ガラス使用